

伊豆市 国学が蒔いた種

新収蔵資料を中心に

国学とは、『古事記』や『万葉集』などの日本の古典を研究して、儒教・仏教が伝来する以前の日本固有の思想・精神を求めようとする学問です。

今から約150年前に明治維新が起り、日本は近代国家への道を歩み始めました。幕末から明治にかけての動乱の時代、人々は大きな価値観の変容を迫られました。そのような中において、国学は

思想的な拠り所のひとつとして機能していました。伊豆市においても、地域に残された資料から国学を軸とした活動の形跡をみることで、今の私達の暮らしや文化に影響を与えています。

本展では、『門田の抜穂』(市指定文化財)

『穂向屋集』『増訂豆州志稿』

など近年収蔵した新資料を中心に、「大見八景」など普段は非公開の資料を交えて伊豆市における国学の一端を紹介します。

楓林帰鳥夕
河前遙望遠
山隔淡煙大見
水聲吟漸
急唯聞伐木
白石雲邊
香鳩題



おおみがわすいせい
大見八景のうち「大見川水聲」

2023

10/6(金)

~ 12/20(水)

伊豆市資料館 特別展示室

休館日：木曜日

開館時間：9:00~16:00 (最終入館 15:45)

入館料：大人 210円 小中高生 100円

※11/1(水)~7(火)は無料
ふじのくに文化財オータムフェア

江戸時代後期

1、伊豆国学の芽吹き

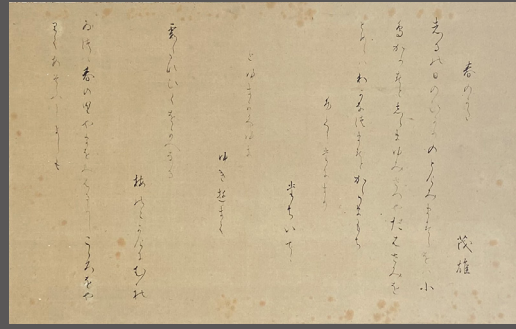
伊豆の国学を牽引した竹村茂雄（修善寺地区熊坂出身）を紹介します。



和歌短冊「花見にまかりて」竹村茂雄
和歌短冊「冬懐旧」竹村茂雄



ほむきのやしゅう
「穂向屋集」全4巻 竹村茂雄



和歌書「春のうた」竹村茂雄

伊豆市 国学が蒔いた種

新収蔵資料を中心に

江戸時代後期～明治時代初頭

2、花開く伊豆国学

竹村茂雄門下生の多彩な活動と、明治維新における伊豆市の国学の動きを紹介します。



大見八景のうち「最勝院晩鐘」



かどたぬきほ
「門田の抜穂」上下 竹村茂枝 跋
伊豆市指定文化財

明治時代～

3、国学が蒔いた種

国学運動がのこした、現代につながる事績として、地誌・郷土誌を紹介します。



そうていずしゅうしこう
「増訂伊豆志稿」全13巻
秋山章 編纂／萩原正平・正夫 増訂

ミニ展示 /

建築でたどる伊豆文学と伊豆の大地 ver. 伊豆市

10/6(金)～11/8(水)

写真家 田畑みなお氏撮影による旅館の建築写真で、伊豆市の近代文学を旅します。

*このミニ展示は、2024/2/1からジオリアで開催する「建築でたどる伊豆文学と伊豆の大地」の一部を先行展示するものです



ジオリア
GEORIA

展示協力：田畑みなお Photo Agency



新井旅館（修善寺）

湯本館（天城湯ヶ島）